

犬 島 地 域 振 興 計 画

I 地域の概要

犬島地域は、本県南部の岡山市に属し、昭和 42 年に離島振興対策実施地域として指定されている。

岡山市の東南端、宝伝・久々井地区の沖約 2.2 km に位置し、地質は主に花崗岩からなり、標高差が 30m 前後のなだらかな地形となっている。

気候は、温暖かつ少雨の瀬戸内海気候である。

人口は 36 人（令和 2 年国勢調査）の小規模な離島である。島固有の地理的・自然的な制約や観光以外の産業の不在、高齢化の進展を反映して、前回の計画策定以降 10 年間で、18 人（△33.3%）の大幅な減少となった。また、人口の年齢構成は、15 歳未満 4 人（11.1%）、15～64 歳 13 人（36.1%）、65 歳以上 19 人（52.8%）と、65 歳以上が半数以上となっている。

65 歳以上人口の減少と 15 歳未満人口の増加により、65 歳以上人口の割合は平成 22 年の 79.6% から 52.8% へと大幅に減少しているが、依然として高い値となっている。

本地域には、古くから銅の精錬業と採石業などで隆盛を極めてきた歴史があり、現在も当時をしのばせる明治・大正時代の銅精錬所跡や採石場跡などの産業遺跡が残っている。平成 20 年には公益財団法人福武財団が本地域に残る銅の精錬所の遺構を利用した「犬島アートプロジェクト『精錬所』」を公開した。平成 22 年には岡山県と香川県の島々で現代アートを発信する第 1 回瀬戸内国際芸術祭が開催され、本地域もその会場となり、集落で展開する「犬島『家プロジェクト』」が公開された。このイベントは国内外で大きな反響を呼び、その後、3 年に一度開催されている芸術祭期間中を含め、本地域に多くの人々を呼び込んでいる。

II 施策の内容

（1）振興の基本的方針

本地域は、産業基盤や生活環境の整備などが本土側と比較して十分とはいえない状況にあることから、65 歳以上が半数以上を占める住民が安全・安心な生活を営むための環境整備や、住民及び来島者の利便性を向上させる施策の展開が必要である。

そのため、本土側の関係機関等と連携した医療・福祉・介護サービスの充実に努めるとともに、交通アクセスの確保や令和 4 年度に提供が開始された超高速ブロードバンドサービスの様々な分野での活用などを検討していく。

また、人口減少が続く本地域の活性化のためには、交流人口等の増加を図るとともに、本地域と継続的に関係を持つ人を増やし、固有の資源を生かした魅力ある島づくりを進める必要がある。

そのため、住民の安全・安心で快適な暮らしとのバランスを保ちながら、文化芸術活動の継続やイベント開催などへの支援を通じた取組を行うことにより、文化・芸術の島としての魅力向上を図り、交流人口の増加や関心の醸成などにつなげていく。また、キャンプ場、犬島自然の家などの既存施設や優れた自然条件、現代アートなどの資源を有効活用した観光、レジャー、体験学習など多様な活動ができる環境づくりを検討・推進する。

（２）交通・通信体系の整備

（２－１）交通体系

【現況・課題】

本地域との航路については、本土側宝伝港まで（距離約 2.5 km、所要時間約 10 分、1 日 6～8 便）と香川県の直島まで（距離約 32 km、所要時間約 55 分、犬島精錬所美術館開館日に 1 日 3 便）の 2 航路が開設されており、特に本土側宝伝港までの航路については、生活航路であるとともに来島者のアクセス路として重要な役割を果たしている。さらに、瀬戸内国際芸術祭の期間中は、岡山市中心部の京橋や香川県の小豆島との航路も運行されている。

住民の唯一の交通手段である船便を確保する必要から、本土と接続する定期船に対しては、経営上の補填を実施することにより、航路を維持・確保しているが、新型コロナウイルス感染症の流行以降は利用者が減少するなど、将来の見通しについては不安定な要素も多い。

定期船と連絡する本土側の交通手段となっていた路線バスについては、令和 4 年 3 月をもって廃止となり、住民や来島者のための新たな交通手段が求められている。

また、本地域の道路は舗装状態が良くないことから、随時道路修繕を実施しているが、車椅子等での移動には負担が生じる箇所もあり、段差解消の対応などが望まれている。

【施策内容】

住民及び来島者の利便性を確保するためには、当面は現状の航路便数を維持していくことが重要であり、船舶業者への支援を継続するとともに、将来も見据えた安定的な定期航路の確保に向けて、その手法についても研究していく。

さらに、住民の本土における移動の円滑化、来島者の利便性の向上に向けて、廃止となった路線バスに代わる新たな交通手段と定期船との連絡の可能性について検討する。

港湾施設については、定期船の利用状況や便数の増加など周辺環境の変化に応じた適切な整備を検討していく。

また、本地域の移動を円滑にするため、道路の維持補修に努める。

（２－２）通信体系

【現況・課題】

テレビ放送については本地域全域で視聴可能であり、携帯電話についてもほぼ通信可能なエリアとなっている。また、インターネットについては、超高速ブロードバンド環境を令和 3 年度に公民連携で整備し、令和 4 年度からは、超高速ブロードバンドサービスの提供が開始されていることから、今後、新たな活用を研究していく必要がある。

【施策内容】

超高速ブロードバンドサービスは、地理的制約のある離島と本土との格差是正を図るうえで有効な手段として期待されることから、今後、医療・福祉・教育・観光など様々な分野での活用方法を模索していく。

(3) 生活環境の整備

【現況・課題】

上水道については、本土からの海底送水が行われており、全世帯に普及している。水道施設は、経年化による維持管理が今後の課題である。

ごみ処理については、本地域から本土までの船によるごみの運搬を地元の犬島地区愛護会に委託し、処理は島外で行っている。また、し尿処理については、軽四バキューム車により各家庭から収集し、犬島浄化センターにて処理を行っている。ごみ・し尿処理については、住民の減少が続いていることから、コスト面での課題がある。

住宅については、人口・世帯数の減少に伴い、一定数の空き家が見受けられ、空き家の適切な管理が課題となっている。

【施策内容】

水道施設については、適切な維持管理に努める。

ごみ・し尿処理については、快適な生活環境を維持していくため、住民の減少や来島者の増加など様々な要因を考慮しながら、低コストで安定した処理体制の確立に向けた検討を行う。

住宅については、空き家の適切な管理と利活用の必要性・促進等について周知・啓発を図るとともに、地域活性化に資する用途での利活用も検討していく。

(4) 医療・福祉の確保・充実

(4-1) 医療

【現況・課題】

医療体制については、犬島診療所1か所において週1回診療が行われているが、医師が常駐していない状況である。そのため、診療所で対応できない場合は本土の医療機関への通院が必要であり、バスの廃止もあり、住民にとって身体的、時間的、経済的に、さらに大きな負担となっている。また、本地域に整備された超高速ブロードバンド環境を活用した遠隔医療などについては、積極的な利用には至っていない状況である。

疾病予防については、壮年期における生活習慣病などの早期発見を図るため、年2回の巡回船による集団検診を実施している。

高齢者は健康・医療に対する不安が大きいことから、健康で安心して暮らすことができる環境を整備するため、健康相談をはじめ、疾病予防、治療、リハビリテーションなど一連のサービスの提供が求められている。

救急患者が発生した場合は、本地域にある3か所の場外離着陸場を利用し、市消防ヘリ「ももたろう」のほか、県消防防災ヘリ「きび」や川崎医科大学附属病院ドクターヘリの出動を要請することにより搬送が可能であるが、夜間や悪天候時のフライトは困難を伴う。また、急病患者搬送等のための船の借り上げ費用に対する助成も行っている。

【施策内容】

「治療から予防へ」の意識改革を図り、自分自身の健康づくりに関心を払い、健

康増進・疾病予防に向けた行動を起こしてもらうことが重要であることから、官民協働により、住民を対象とした健康づくりに向けた講習会や相談会を開催し、健康への意識を高めるなど、地域ぐるみでの健康づくりの実践に向けた体制づくりを支援する。

また、通院負担の軽減・解消に向けて、本地域に整備された超高速ブロードバンド環境を活用した遠隔健康医療相談のモデル的な実施などにより、高齢者の医療アクセスの確保・向上に努める。

救急医療については、救急患者等を安全かつ迅速に本土へ搬送できる体制づくりに努める。また、緊急通報システムの普及啓発に努め、事故や急病などの発生時に備える。

（４－２）高齢者等の福祉

【現況・課題】

本地域の65歳以上人口の割合は52.8%と依然として高く、健康・医療・高齢者福祉対策は大きな懸案事項となっている。

地域包括支援センターでは、住民と連絡を取り合いながら、介護等に関する相談や関係機関との連絡調整などを行っており、本地域では介護予防センターによる介護予防教室を開催している。

また、身近な地域での支え合いについて話し合う場である地域支え合い推進会議を設置し、本地域の実情を踏まえた住民等の自主的な取組を促進できるように、支え合い推進員による支援を実施している。

しかしながら、島という地理的制約により、訪問系サービスが利用しにくいなど、本土との間に介護サービスの格差が生じている。住民の中には、本地域に住み続けることが困難になり、本土の身内に身を寄せる高齢者などもおり、定住の場所として本地域を維持するためには福祉サービスの充実が求められる。

【施策内容】

高齢者向け介護サービスなどの充実に向けて関係機関との連携を強化していくとともに、安心して快適に住める生活環境づくりのために、住宅改修支援制度など居宅サービスの周知に努める。

また、高齢者の生きがい対策として、社会活動への参加機会の確保・提供に努めていく。

（５）教育・文化の振興

【現況・課題】

本地域の幼稚園・小学校・中学校は平成3年に廃校となっており、子どもは定期船を利用し、本土側の学校園に通っている。

学校跡地には、社会教育施設「犬島自然の家」を設置し、シーカヤックや天体観測などの自然体験活動を実践しているほか、生涯学習活動の一環として公民館による出前講座等を開催している。

また、本地域には経済産業省から近代化産業遺跡に認定された銅の精錬所跡や菅

原道真公を助けたという話に由来する犬石様のお祭りなどの文化財や伝統行事があり、瀬戸内国際芸術祭の開催をきっかけに全国から関心を集めている。

しかし、伝統行事については、住民の減少と高齢化により、その継承が危ぶまれている。

【施策内容】

本土側に通学する児童・生徒の定期船利用に係る負担軽減のため、船賃の助成を行う。

瀬戸内国際芸術祭の開催などを機に現代アートの島として脚光を浴びていることから、犬島自然の家の資源やスペースを有効に活用し、現代アートとの連携を図っていくことを検討する。また、公民館等との連携により、コミュニティハウスなどを活用して、住民が気軽に参加できる生涯学習活動の充実に努めるとともに、市民や関係機関と連携しながら、文化財や伝統行事を伝承していくことの必要性について意識の共有化を図っていく。

（６）再生可能エネルギー

【現況・課題】

脱炭素社会の実現に向け、市有施設への太陽光発電設備の導入や、住宅・事業所等へのスマートエネルギー化に資する機器の導入支援等を実施しているが、本地域での導入は進んでいない状況である。

【施策内容】

スマートエネルギー導入促進補助事業等により、引き続き住宅や事業所等のスマートエネルギー化を推進するとともに、再生可能エネルギーの利用拡大に有効な情報を効果的に発信していく。

また、本地域の脱炭素化とレジリエンス（災害等に対する強靱性）強化に向け、未利用エネルギーの利活用や安定的な自立エネルギーの確保等について研究していく。

（７）防災基盤の整備

【現況・課題】

高潮の被害を防止し、住民の安全と安心を確保するため、平成元年度から平成8年度にかけて東谷地区と釜口地区の海岸線の高潮対策事業を実施した。その後、平成16年の台風第16号において観測史上最大の潮位を観測し、高潮被害への防護水準が引き上げられている。

災害時における本地域と本土との通信機能については、平成25年度に防災行政無線屋外拡声子局を設置するなど、早期の情報伝達手段の確保を図ってきている。

消防・防災体制については、火災等の災害発生時に、最寄りの消防署所から出動した車両が久久井漁港又は宝伝港へ一時集結後、船により消防隊員と資機材を本地域へ搬送して対応することとなっている。本地域には、犬島分団が組織されており、消防団機庫1棟、軽四消防車（可搬ポンプ積載車）1台、その他可搬ポンプ1台を配備しているが、消防団員は8名であるため、一次対応能力に限界がある。人口減

少に伴い、消防団員や町内会による自主防災組織の構成員の減少も想定されることから、消防・防災体制づくりが課題である。

【施策内容】

住民が安全・安心に生活できるよう、高潮対策としての海岸整備に継続して取り組むとともに、近い将来発生が想定されている南海トラフの巨大地震による津波も見据えた海岸整備も併せて検討していく。

また、防災行政無線屋外拡声子局等の活用により、災害時における早期の情報伝達に努めるとともに、通信機器の適切な維持管理等により、本地域と本土との通信機能の確保に努める。

消防・防災体制については、地域の実情を考慮しながら、災害時に迅速かつ効果的に対応するための体制づくりに向けた検討を進める。

(8) 産業の振興

【現況・課題】

令和2年国勢調査における住民の産業別就業者をみると、就業者16人のうち、第1次産業の漁業従事者が1人、第3次産業が14人、その他1人となっている。

高齢化等により住民の新たな産業の創設・育成は難しいが、移住者等がカフェを営業するなど、来島者等に向けたサービスの提供も一部で見受けられる。来島者等の利便性の確保のためには、物販や宿泊等の事業用施設の充実などが求められる。

【施策内容】

本地域の住民や事業者などの関係者等と連携しながら、変わりつつある働き方や暮らし方に対応できるように、来島者等を対象とした物販や宿泊等の事業用施設の充実に向けた対応策を検討していく。

(9) 観光の振興

【現況・課題】

夏季には南東部の海水浴場を中心に、海水浴客等で賑わっていたが、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響や安全・安心な管理運営体制の構築が困難となったことから、海水浴場は開設していない状況である。

島の周辺海域が釣りの適地であることから年間を通じて釣り客が訪れている。

本地域に残る銅の精錬所跡の遺構を保存・再生した犬島精錬所美術館や、集落の中に展開されている「犬島『家プロジェクト』」、3年に一度開催される瀬戸内国際芸術祭により、多くの観光客が来島し、住民も観光客を自然に受け入れ、現代アートの島としてのイメージも定着している。

しかし、多くの観光客を受け入れるためには、交通アクセスや滞在のための施設が十分確保されているとはいえ、このことは住民生活における利便性という観点からも考慮する必要がある。

また、これまで夏季に集中していた観光客が、年間を通じて来島するような魅力ある島づくりを進めるため、行政、住民、関係機関・団体が連携・協力しながら観光産業の育成に力を注いでいくことが求められている。

【施策内容】

リピーターや滞在者を増やしていくために、交通アクセスの向上など、観光客の受入体制の充実を図るとともに、宿泊、トイレ、休憩などの観光客の利便性向上に資する施設として、犬島自然の家を活用する。また、本地域で展開される現代アートのイベント等については、関係機関・団体と連携し、本地域の活性化につながるよう効果的な支援に努めていく。

また、豊かな自然、風光明媚な景観といった資源を活用したキャンプ、シーカヤック体験、天体観測などのレジャー型観光の充実に向けた観光コンテンツの検討を行い、利用者の増加を図るとともに、SNS（ソーシャルネットワークサービス）やホームページ、パンフレットなど、様々な媒体を通じて魅力ある本地域の情報発信に努めていく。

（10）交流人口の拡大

【現況・課題】

犬島自然の家での生涯学習講座の実施や宿泊研修等の受け入れ、瀬戸内国際芸術祭などへの誘客により、住民と来島者の交流機会の増加を図っているところであり、引き続き、来島者の増加や本地域への関心の醸成に向けた取組が必要である。

【施策内容】

交流人口の拡大に向けて、本地域でイベント等を開催している関係機関・団体等と連携しながら、本地域の魅力向上や情報発信について研究していく。

Ⅲ 産業振興促進事項

（1）産業の振興を促進する区域及び振興すべき業種、計画期間

産業振興促進区域	業種	計画期間
犬島地域全域	旅館業、製造業、農林水産物等販売業、情報サービス業等	令和5年4月1日～ 令和15年3月31日

（2）当該業種の振興を促進するために行う事業の内容

産業振興に係る課題及びその対応策については、上記Ⅱ（8）産業の振興及び（9）観光の振興に掲げる事項その他各事項のとおり。

（3）関係団体との役割分担及び連携に関する事項

上記業種における産業振興に取り組むため、各主体が連携して実施する取組は、以下のとおりとする。

- 岡山県
離島税制の活用促進等
- 岡山市
犬島地域振興計画における施策の推進
- （公社）おかやま観光コンベンション協会
離島観光ツアーの実施、PR活動の強化等

○その他関係団体

文化芸術活動の継続やイベントの開催等

(4) 目標

業種	計画期間中に行われる新規設備投資件数（延数）	当該新規設備投資による新規雇用者数
旅館業、製造業、農林水産物等販売業、情報サービス業等	4件	4人

(5) 評価に関する事項

目標の達成状況については、中間及び終了後に評価を行い、公表することとする。